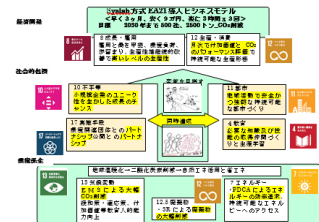


商品開発、ビジネスモデルの開発にSDGsを使う

- ・ まず、ものの見方を変える、「あるべき姿」から考える
目的→あるべき姿→解決策→調査・分析→システム化、...
- ・ 調査・分析の例（なぜ、EA21 認証件数は増えない？）
- ・ 課題（リスク）とチャンス（機会）からシステム化
EA21 導入支援ビジネスモデルの開発の例
- ・ SDGs で様々な課題の同時解決を目指すモデルの例

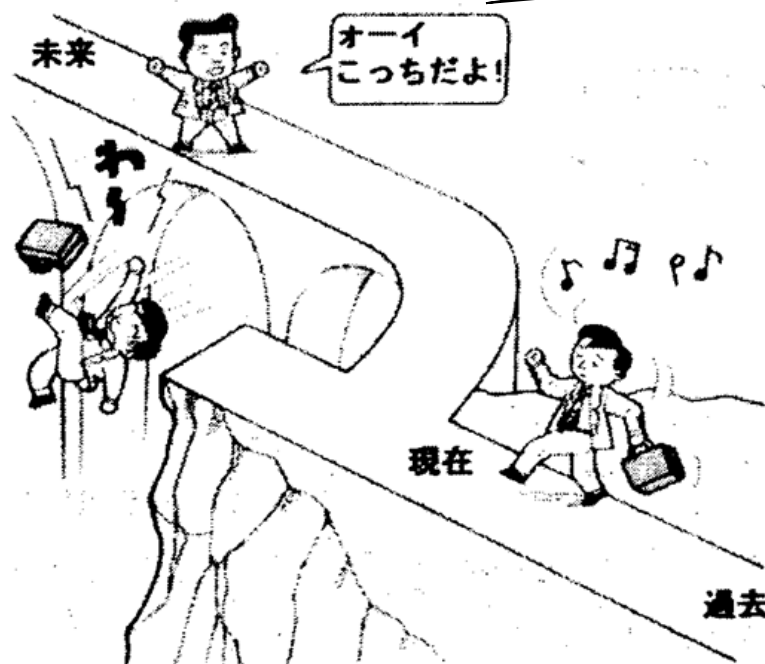


企業を元気にする
シスラボ・スエヒロ



Syslab 方式 EA21 導入ビジネスモデル 過去の延長線上に未来はない 予測はできないが、デザイン（あるべき姿）はできる

目的：継続的 CO2 削減システム



「変革」のアプローチ

- 目的の確認（いつ、どこ、だれ）
 - ☞ 2030 年、小規模企業、社員
- あるべき姿を決める
 - ☞ 継続的 250 トン/年 CO2 削減
- 解決策
 - ☞ 早く、安く、楽に EA21 導入
- 調査、分析
 - ☞ 「よい会社」を作る
- システム化
 - ☞ 継続的に「一人ひとり稼ぐ組織」
- 実施
 - ☞ 5 社/2019 年、50 社/年目指す
- 確認
 - HP で公表

←
出所 ブレイクスルー戦略 日々野省三著

(解決策：EA21 導入) (調査・分析：EA21 の登録件数が伸びない)

- ・ ISO9001、ISO14001 と同じように十年くらい登録が急増するが以後伸びない
- ・ 経営に役立たない (メリットがない)、事務に手間がかかるという理由で取り下げる



② 課題（リスク）とチャンス（機会）から経営計画（戦略）を考える

（内部環境分析）シスラボ・スエヒロの内部・外部からの強みと弱み分析

	企業内部から見る	企業外部から見る
強み	・ 戦略会計（管理会計）の経験多い ・ ファシリテーションによる現場改善経験豊富	・ 50 名以下に特化した統合 ISO ノウハウ ・
弱み	・ 一人であること（限られたマンパワー）	・ 個人ゆえの信用力が弱い ・
戦略	・「外部の強みと内部の強み」と「内部の弱みを改善し外部の強み」を生かす。 ゴールは高い目標を設定するために S D G s を参照する	

大幅な CO2 削減する戦略

（外部環境分析・市場の分析）

製造業の 30 名以下小規模企業の強み弱み分析（共通）

	企業内部から見る	企業外部から見る
強み	・ 特化した技能や技術がある ・	・ 特化した市場を持っている ・ 量はこなせないが小回りが利く
弱み	・ 経営資源（人、時間、資金）が脆弱 ・ 経営計画があいまい、一方的仕事の指示 ・ 職場リーダー（マネジャー）が育たない	・ 儲からない（付加価値が低い） ・ 顧客へ安心と信頼の発信力が弱い



① (システム化) EA21 導入支援ビジネスモデル開発



- ・ 早く (3ヶ月)、安く (9万円)、楽に (3時間x3回)、すぐには役に立たない、まず、「型」をつくり、スパイラルアップで成長させる
- ・ EA21 取得が目的でなく、「よい会社」つくること
「よい会社」とは、①利益を出せる会社、②この会社でよかつと感じる (信頼と誇り)
- ・ 自立的に行動できる「一人ひとり稼ぐ組織」を目指す

- ・ 利益(付加価値)管理と EA21(PDCA 構造)のセット
- ・ 毎月、14~17 のデータで付加価値と CO₂が見える、期末の計画対実績の予測が見える
- ・ 社員に利益構造を教え、経営層と社員の協働作業を

①SDGs で様々な課題の同時解決を目指 (「利益」と「EMS」の両立性 本来業務と統合)

経済開発

Syslab 方式 EA21 導入ビジネスモデル
 <早く3ヶ月、安く9万円、楽に3時間 x 3回>
 目標 2030年まで500社、2500トンCO₂削減



8 成長・雇用
 雇用と働き甲斐、環境負荷、歩留まり、生産性雄継続的改善で高いレベルの生産性

12 生産・消費
 月次で付加価値とCO₂のパフォーマンス評価で持続可能な生産形態



社会的包摂



10 不平等
 小規模企業のユニーク性を生かした成長のチャンス

変革を目指す



11 都市
 地域活動で安全かつ強靱な持続可能な都市づくり



17 実施手段
 環境関連団体とのパートナーシップ
 パートナリツプで目標を達成しよう



4 教育
 必要な知識及び技能の取得仲間づくりと生涯学習



環境保全



13 気候変動
 EMS による大幅CO₂削減
 緩和策・適応策、付加価値等教育人的能力向上

地球温暖化→二酸化炭素削減→自然エネ活用と省エネ

12.5 廃棄物
 ・3R による廃棄物の大幅削減



7 エネルギー
 ・PDCA によるエネルギーの効率追求、持続可能なエネルギーへのアクセス

